

5月に子どもたちと一緒に植えたアサガオが、恵みの雨を受けて大きくなっています。「早くアサガオ咲かないかな」「何色の花が咲くかな」と子どもたちは水やりをしながら話しています。植物の成長を子どもたちと一緒に楽しみに待つ生活は嬉しいことです。

「何にみえるかなー？」 1学期の保育の視点②より

— 自分の好きな遊びを見つけ、繰り返し楽しむ —

ある朝、私が木工室にいるとAちゃんがやってきました。Aちゃんは前の日にのこぎりで切った10mmほどの厚さのベニヤ板を大切に手に持っていました。Aちゃんは板を私に見せると、「これね、昨日切ったんだよ！やすりもかけたからすべすべだよ」と差し出しました。Aちゃんの言う通り、板はよくやすりがかけられていました。「本当ね。しっかりやすりがかけられているわね」と言う私のことばにAちゃんは、嬉しそうに「今日はその続きをするんだ」と言いました。

Aちゃんはたくさん木片が入ったかごの前に立つと、良さそうな木片を探し始めました。一つ手に取っては自分の持っている板に合わせ、「これじゃないな」とかごに戻し、またごそごそと他の木片を探します。少ししてからAちゃんは「これにしよう」と一つの木片を選びました。それから自分の切った板に打ち付け始めました。釘が板にまっすぐ立つように最初はゆっくり打っていき、釘が固定されると、軽快にトントントントと打ち込みます。

やがて「出来た」とAちゃんの声が聞こえました。Aちゃんの切った板と木片がくっつききました。「これはなにかしら？」と私が打ち付けた板を見ているとAちゃんは「う～ん、まだわからない」と言い、今度はやすりをかけ始めました。やすりを少しかけると、一度手を止めて指でなぞり、手触りを確かめます。この作業を繰り返ししていると、Bちゃんがやってきました。Bちゃんもまた、以前に切った自分の板を持ってきました。「Aちゃんもいたんだ」とBちゃん。Aちゃんにはこっと笑って「うん」と応えます。それからBちゃんはAちゃんと一緒にやすりをかけ始めました。

やがてAちゃんが2つ目の木片を打ち付けた時、「せんせい、ぼくの、でんしゃに見える？」と言って「ガタンゴトン」と木工台の上で走らせました。「そうね、電車に見えるわ」と私。すると隣にいたBちゃんは「くるまに見える」と言いました。

AちゃんとBちゃんはこの後もくり返し木片を打ち付けていきました。そして木片を打ってはやすりをかけ「今度は電車からいすになった」等と色々なものに見立てていきました。

AちゃんやBちゃんだけではなく、たくさんの子ど



もたちが木工室へ足を運び、自分の切った板に木片を打ち付け、動物や乗り物に見立てることを繰り返し楽しんでいきます。その過程では釘が曲がってしまったり、思うように釘を打ち付けられないこともあります。子どもたちは何度も何度もやり直しています。その姿にも成長を感じます。私たち保育者は時をとらえて、子どもの手を取り、ことばを添えてコツを伝えていきます。

「ホットケーキができました！」 1学期の保育の視点④より
— 保育者や友だちと共に過ごす中で、
人と一緒にいることが楽しく嬉しいと感じる —

よく晴れた朝のこと、CちゃんとDちゃんはバケツの中に入ったトロトロになった泥を小屋の前の切り株の上に流していました。私は一体何をしているのだろうと思い、「CちゃんとDちゃんは何をしているの？」と聞くと2人は顔を合わせ「ホットケーキだよ」と言って笑い合いました。私が2人に「いいわね、私も食べていいかしら？」という「まだ作ってるところだから、もうちょっと待ってください」とCちゃん。切り株をホットケーキを焼く鉄板に見立て、そこに泥でできた生地を流しているのです。私は「分かったわ。では出来上がったなら教えてね」と言い、少し離れた所から見ていることにしました。

2人の泥んこホットケーキ作りにはいくつかの手順がありました。①まずはトロトロになるように、砂と水を順番に入れてかき混ぜます。②バケツの上にふるいを置き、トロトロになった泥をこします。③こされてバケツに溜まった泥がホットケーキの生地です。④最後に（鉄板に見立てた）切り株の上に、流し込み、焼きあがればできあがりという順です。

2人はその手順を何度も繰り返していきました。いくつもの手順があるのでホットケーキが完成するまでには時間がかかりますが、2人はコツコツ作っていました。時々、私はCちゃんとDちゃんの様子を見に行きながら「お腹がペコペコになってきたんですけど、

ホットケーキは焼きあがりましたか？」と聞くと、Dちゃんは「まだまだ、おいしいホットケーキを作るには時間がかかるんです」と嬉しそうに答えました。Cちゃんはお母さんのような口調で、「もう少し待っててちょうだい、できたら呼びに行くわ」と言いました。

私は、汗をかきながらコツコツと時間をかけてホットケーキ作りをしている2人の姿を嬉しく感じながら、出来上がるのを楽しみに待っていました。

30分くらいたった頃、CちゃんとDちゃんの「あんどーせんせーい！ホットケーキできたよー！」と呼ぶ声が聞こえました。私が急いで2人のもとへ行くと、切り株の上には



泥でできた丸いホットケーキが置かれ、周りには小さなお団子が飾られていました。「うわあ、美味しそうなホットケーキね！お腹がすいていたから嬉しいわ」と私。すると「今日は特別お団子付きです」とCちゃん。「あーおいしい」と私。2人は私がホットケーキを食べるのを嬉しそうに見ていました。

この後も私は何度かお腹を空かせて、CちゃんとDちゃんの所へ行くと「またお腹すいたの？」と言っては何度も、ホットケーキを作っていました。

CちゃんやDちゃんのように自分（たち）の選んだ遊びを一人、又は友だちとコツコツ遊ぶ姿が見られます。このように一つの遊びに夢中になって、時間をかけて取り組む姿は、やがて小学校へ行った時の遊びや学習、大人になった時の仕事の姿に繋がっていくと言われていますが、そのことを信じることができます。

(安東 直緒)